

まちの目記帳



企業による社会貢献活動

小田嶋組道路維持課の皆さんが除雪ボランティア

1/28

国道229号の除排雪や夏場の草刈りなどの維持管理作業を行っている小田嶋組道路維持課（古平町）の皆さんが、余別地区コミュニティーセンターの除雪ボランティアを行いました。例年になくシバシバで、積雪量の多くなっている同地区で、災害時の避難施設となっている同センターの安全確保を図ろうと、この日、雪で埋もれそうになっていたFFストーブの排気口の回りや非常口などを、人力と除雪機により除雪作業を行いました。

また、同維持課の皆さんは、2月9日に開催された夢あかりにも参加され、作られた雪像前では、多くの親子づれが写真撮影をする姿が見られました。



勇気を奮って鬼退治

保育所・支援センターで豆まき

1/31

2/1

2月3日の節分を前に、各保育所、子育て支援センターで豆まきが行われました。

先生から「自分の中にある弱虫の鬼やわがままな鬼と一緒に外へ追い出そうね。」とお話があり、いよいよ鬼の登場。新聞紙で作った豆を鬼に目掛けて一斉に投げました。中には鬼の迫力に泣き出す園児もいましたが、一人ひとり「良い子になります。」と鬼と約束し、鬼は外へと出ていきました。



◀ みなと保育所 (2/1)

子育て支援センター (2/1)



◀ びくに保育所 (1/31)

寒さに負けず元気に雪遊び

第7回少年教室～スノーキャンドル制作～

2/9

第7回少年教室が行われ、小学生など23人が参加しました。今回の教室では、同日夕方から開催される「しゃこたん夢あかり」に参加。夢あかりメイン会場広場で、スコップやバケツを片手にスノーキャンドル制作に挑戦しました。寒さに負けず、水で雪を押し固めながら友達や兄弟とスプレーで色を付けなどをしながら、楽しそうに取り組んでいる姿が見られました。

その後、スキー場に移動した子供たちは、タイヤチューブで斜面を滑走。歓声を上げながら元気に遊んでいました。



放射線の健康被害を考える 地域医療講演会に町内から50人が参加

2/16

北後志地域保健医療対策協議会と余市三師会が主催する「地域医療講演会」が余市中央公民館で開催されました。（独）国立病院機構北海道がんセンター院長西尾正道先生を招いて行われた講演会は、チェルノブイリ原発事故など、これまでの歴史的な事実を通じ、放射線について正しい知識を学んでもらうことを目的に行われ、積丹町から自治会や婦人会、消防団員など50人が出席しました。西尾先生は、「国は外部被ばくに重点を置いているが、これからは放射線物質が食品などから体内に入る内部被ばくの影響の方が問題。被爆者の健康状態など、管理体制の整備を進めていくことが必要。」などと話し、参加者は熱心に耳を傾けていました。



人形劇やゲームで楽しく和やかに！ 第2回親子ふれあい塾

2/17

幼児から小学生までの親子を対象とした「親子ふれあい塾」が開催され、24人の親子が参加しました。

今年も読み聞かせサークル「くろねこかあさん」（的場静子代表）の協力で行われたふれあい塾。第1部では、絵本の読み聞かせが行われたほか、人形劇『やまなしもぎ』では、迫力ある妖怪の登場にびっくりする場面も……。

また、第2部では、「なべなべ底抜け」や玉入れなどのゲーム、おやつを豆代わりに「豆まき」も行われ、会場は子どもたちの笑顔と笑い声に包まれていました。

的場代表は、「今日の人形劇などは、図書コーナーにある絵本から紹介したもの。これをきっかけに本に慣れ親しんでもらえたら嬉しい。」と話していました。



救急車が来るまでに出来ること 美中2年生が応急手当講習会

2/18

北後志消防組合積丹支署による応急手当講習会が、美国中学校体育館で行われ、2年生12人が講習を受けました。

はじめに、救急車が来るまでの応急手当の重要性や救命処置に関する講義を受けた後、ダミー人形を使って心肺蘇生法とAEDの実技訓練が行われました。

生徒たちは、人工呼吸をしても人形の胸部がなかなか膨らまなかったり、胸部圧迫の強さや速度の調整など、それぞれ苦労しながらも真剣に取り組んでいました。

AEDは中学校のほか各小学校にも配置されています。



▲心肺蘇生法とAEDの実技指導を受ける様子